令和８年度　城山西小学校の特色ある教育の編成方針について

宇都宮市立城山西小学校長　鮎瀬　寿久

１　学校教育目標

（１）基本目標

「人間尊重」の教育を基礎とし，知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で，思いやりのある豊かな心をもち，確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

【目指す学校】

○ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校
○ 教職員が専門性を発揮し，子どものよさや可能性を伸ばしていこうとする学校
○ 家庭や地域とのつながりを大切にし，信頼と協力で結ばれた学校

（２）具体目標

○ 情操豊かで，思いやりのある子ども（やさしく）
○ 自ら学び，よく考える子ども　　（かしこく）
○ 健康で，やりぬく子ども　　（たくましく）

【合言葉】

やさしく かしこく たくましく 笑顔輝く城西の子

２　学校経営の理念

本校は，平成１７年度より「小規模特認校」に指定され，特色ある教育活動を推進してきた結果，学校統廃合の危機を脱することができ，伝統ある学校として存続してきた。また，平成２７年度の小規模特認校１０周年を機に,「小規模特認校 第２ステージ」の取組を展開し，昨年度は２０周年という大きな節目において原点回帰と感謝を胸に，地域・保護者・学校の絆を再確認したところである。

令和８年度は，この２０周年の成果を礎とし,「小規模特認校 第３ステージ ～次代を拓く新たな挑戦～」へと歩みを進める。２０年で培ってきた誇り,「咲かせよう！ 城西プライド～ 感謝する心・挑戦する心・つなぐ心 ～」を次世代へと着実に引継ぎ，変化の激しい社会を生き抜く力を育むため，令和の時代に最適化された教育活動をさらに深化させる。

本校が持続可能な発展を遂げるためには，縦軸（伝統の継承と次世代リーダーの育成）と，横軸（先進的な教育実践と戦略的な情報発信）を高度に融合させた協働体制が不可欠である。PDCA サイクルを回し，常にブラッシュアップを重ねることで，小規模校ならではの機動力を活かした「立体的な教育価値」を創造していく。

「小さな学校だからこそできる，未来への教育」をコンセプトに，特に以下の二点に力点を置き,「選ばれる魅力あふれる学校」を創り上げる。

（１）　「未来への架け橋」をキーワードに，昨年度再確認した原点を「形」にし，教職員は高い専門性と深い愛情をもって教育力の向上に励む。縦割り班活動を通じた「家族のような絆」をさらに深めるとともに，学校・保護者・地域の協働を「対話型」へと進化させ,強固な信頼関係のもとで子供たちの自己肯定感を育む。

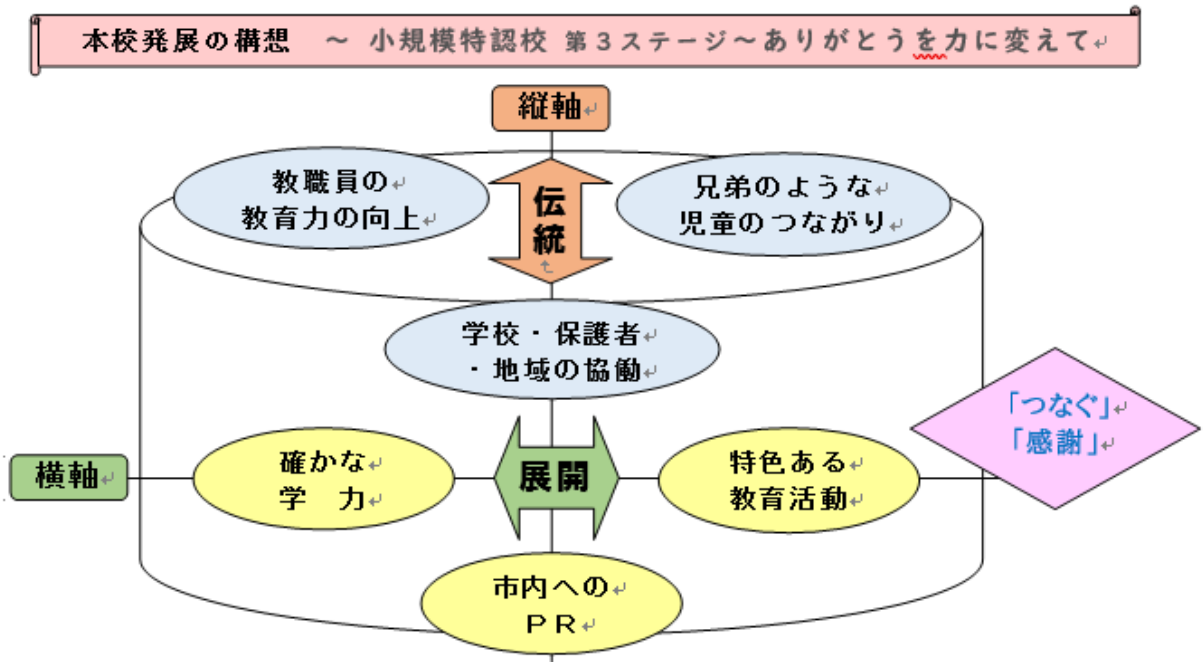
（人材育成と伝統の継承・深化）

（２）　「確かな学力」を核に，ICT の活用と体験活動を融合させ，知・徳・体の調和がとれた「生きる力」を育む。主体的・対話的で深い学びを日常化し，子供たちが自ら問いを見つける授業改善を推進する。本校独自の教育実践を「城西プライド」として確立し，市内外へ戦略的に PR することで，本校の教育的価値を広く波及させていく。

（確かな学力とブランド力の構築・戦略的 PR）

そして，全校児童 109 人一人ひとりの個性が光り，笑顔が輝く城山西小学校を目指す。あわせて，本校の教育理念に共鳴し，入学・転入学を希望する児童数の安定的な維持・拡大に全力を尽くす。

【本校を発展させるための「縦軸」と「横軸」の構想図】



【小さな学校だからこそできる教育活動】

小さな学校（城山西小）だからこそできることがあります
～次代を拓く新たな挑戦（150 年の歴史を胸に，次なる未来を拓く新たな一歩）～

○ 全児童が，ランチルームで一緒においしい給食を食べます
○ 英会話タイムを継続して行い，英語でのコミュニケーション力の向上を目指します
○ 兄弟のように仲良く縦割り班で活動し，全員の顔と名前と特長が分かります
○ 地域と連携した教育活動を実践し，子供たちの夢をつなげ，感謝の心を育てます

小規模特認校の５つの公約

① 会話科の推進
② 文化人の先生方の授業
③ 地域連携
④ 安全でおいしい給食
⑤ 放課後活動（こがし桜ｽｸｰﾙ）

子供たちと創り上げる５つの約束「あいうえお」

① **あ**いさつ･･･「自分から明るく爽やかな挨拶」
② **い**じめゼロ･･･「いじめを許さない･起こさない」
③ **う**つのみやで一番･･･「宇都宮で何か一番！」
④ **え**がお･･･「笑顔輝く城西の子！」
⑤ **お**もいっきり勉強･運動･･･「頭と体を鍛え抜こう」

年度	テーマ	展 開
Ｒ５	挨拶	① あいさつ広げ隊とあいさつ運動 ② 挨拶の日常化
Ｒ６	挨拶	① あいさつ広げ隊とあいさつ運動 ② 挨拶の日常化
Ｒ７	挨拶	① あいさつの習慣化 ② あいさつ運動
Ｒ８	挨拶 英語	① あいさつ運動 ② 英語の日常化・コーナーの設置

*「110人全員の**笑顔輝く***
城山西小学校に！」

３　特色ある教育課程の編成

(1) １学級の児童定員数を 20 人程度とした少人数指導を行い，児童一人一人へのきめ細かい支援を実施。

(2) 特設教科の重点化

指　導　内　容	１年	２年	３年	４年	５年	６年
① 会話科	１０	１０	１５	１５	１５	１５
② 外国語活動	２０	２０	３５	３５		
外国語科					７０	７０

① 会話科では，以下の２点を育成することを目標にして教育課程上に位置付けた。
・会話の楽しさやコミュニケーションの大切さに気付き，会話を通して他者と積極的に関わろうとすること
・考えたことや伝えたいことを相手に分かりやすく話したり，効果的な表現を工夫したりすること

学年	活　動　内　容	外　部　と　の　連　携
１年 ２年	かるた遊び ことばを広げる活動 全体集会での発表	
３年	百人一首 読み聞かせに挑戦しよう	宇都宮子どもの本連絡会
４年	百人一首　　劇を楽しもう 全体集会での発表	アトリエほんまる
５年	百人一首　　アナウンサーから学ぼう ことばをひらく「かたり」をしよう	とちぎテレビ 下野民話の会
６年	百人一首　　プレゼンの達人になろう 全体集会での発表 インタビューを取り入れた番組づくりをしよう	とちぎテレビ

② 外国語活動・外国語科では，常駐の AET(Assistant English Teacher)によるティームティーチングの授業を実施している。また，月曜日から木曜日まで毎日１５分間の英会話タイムを設けて，外国語指導を継続してできるよう教育課程を編成している。

③ 特色ある教育活動では，各分野の専門性の高い文化人の先生方との触れ合いを通して，人

としての感性を磨かせることを目標として実践を行っている。
文化人の先生方の授業を通して児童に身につけたい力及び目指す児童像は，以下の通りである。

感性を磨こう

・生涯にわたって芸術が楽しめる子ども
・自分のめあてに向かってせいいっぱいがんばれる子ども
・お互いを尊重できる子ども
・みんなで行うことに喜びを感じられる子ども

〈文化人の先生方の教育支援活動〉

学　年	活　動　内　容	講　師	予定時数
１　年	体幹を鍛える体づくり ・運動会ダンス 「木霊　歌う　笑う」 ・体幹を鍛える準備体操 ・創作ダンス	舞踊家　柳　先生	４
２　年	体幹を鍛える体づくり ・運動会ダンス 「木霊　歌う　笑う」 ・体幹を鍛える準備体操 ・創作ダンス	舞踊家　柳　先生	４
３　年	風船たまご製作	彫刻家　粕谷先生	４
４　年	大書　創作	書道家　櫻井先生	８
５　年	箏　演奏 ・こがし桜スクールでの箏の練習 ・孝子桜まつりへの参加	箏奏者　和久先生	１５
６　年	箏　演奏 ・こがし桜スクールでの箏の練習 ・孝子桜まつりへの参加	箏奏者　和久先生	１５
全学年	マイ皿づくり ダンス ・運動会ダンス 「木霊　歌う　笑う」	陶芸家　林　先生 舞踊家　柳　先生	２ １０

◇本校の特色ある教育課程の編成として，まず１つ目に，**「少人数による学習指導」**が挙げられる。一人一人へのきめ細かい支援を行っていくことで，さまざまな教育活動が実践されてきた。

２つ目に，**「外国語指導～英会話タイム～（５校時が始まる前の１５分間）」**を入学から卒業までほぼ毎日学ぶことが挙げられる。児童の英語を学ぶ意欲の持続と，日常的な習慣化を図ることにより，着実な力を身に付けられるようになってきている。

３つ目に，**「文化人の先生方による教育活動」**が挙げられる。それぞれの分野の文化人の先生方から直接指導を受けることで，児童の感性を育み，発想力に大きな飛躍が見られる。

これらの活動を継続し実践していくことで，今後も本校児童の感性を磨いていけるようにしていく。